PRESS RELEASE

報道関係各位

2024 年 1 月 29 日

公益財団法人国際高等研究所

全国 9 地区で開催！「匿名制」での研究ポスター発表大会の実施

「人類の未来と幸福のために何を研究するかを研究する」を基本理念とする公益財団法人国際高等研究所（京都府木津川市、理事長 上田 輝久、所長 松本 紘）は、2024 年 3 月より、分野も組織も世代も超えて研究テーマを深堀する「匿名制研究ポスター発表大会」を全国において順次実施します。「匿名制」によって、専門名や所属組織名だけで内容を判断してしまいがちな先入観を取り除き、そもそも自分の研究とは何なのかを深く問い合う場を生み出し、思いもよらなかったアイデアや、知りもしなかった技術と遭遇し、分野や組織を超えた共同研究の創出をねらいます。

かつて実施された類似企画の参考写真（京都大学学際融合教育研究推進センター宮野公樹准教授、個人提供）。研究ポスターの上部に番号が振られており、発表者の所属や氏名はない。質問やコメントは無記名で付箋紙に書き込み貼り付ける。発表項目もあえて 3 つに限定。

＜ どのような事業なのか ＞

● 分野も、世代も、組織も一切問わない！　あえて「匿名」での 100 人規模での研究ポスター発表を実施。匿名とすることで、所属だけで分野を判断してしまいがちな研究者の先入観を取り除き、研究テーマの「問い」のみに焦点をあてた本質的な学術の対話を創出。

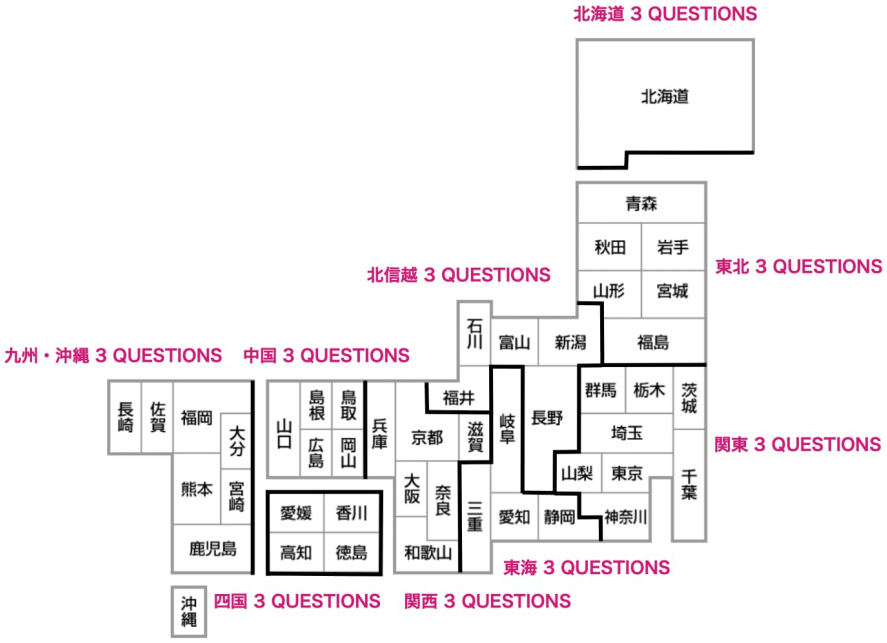
● この”匿名”研究ポスター発表大会を、全国を 9 地区に分けて、2 年間かけて全国で実施。

● 研究ポスター掲示者は、地区の大学、研究機関に所属する教員、研究者、大学院生。高専生も。来場してコメントを貼るのは、企業、行政、高校生、メディア、誰でも可。

● 研究ポスターに「こういう専門の方と話したい！」というコラボ用ハッシュタグを記載し、新たな共同研究の創出をねらう（実は、匿名性でありながらも、参加登録番号を使って、後日コンタクトをとれるシステムを整備します）。

● 地元の中国新聞社と協力し、各地方ならではの課題や欲望を調査！　それをポスターに掲示し、その地方に属する参画研究者になんらかの応答を書いた付箋紙を貼っていく。これらは、企画後に冊子としてまとめられ、大学、行政、文科省等中央省庁、メディア等に広く配布。

● 第一回目として、中国地方から実施し（3月3−6日の4日間　幹事校：広島大学）、これを広報材料として全国にアピールし、順次、他地区での開催に挑む。



全国を 9 の地区に分けて順次開催していく計画。研究テーマ掲示者はその地区の大学、研究機関に所属する教員、研究者、大学院生。高専生も可。なお、来場してコメントを貼るのは、企業、行政、高校生、メディア、誰でも可

＜ なぜやるのか？　実施動機や背景は？＞

今日の学術界およびそれを担う行政は、短期的な視野での実施になりがちと批判されることも少なくはありません。確かに、ランキングや論文生産能力は可視的、計測的であるがゆえ、学術界外に対してはわかりやすい指標ではあります。しかし、学問本来の仕事は、むしろその安易なわかりやすさと対峙することにあるはずです。ランキングとは何か、研究業績とは何か、そしてそもそも「論文」とは何か・・・　学術においてそれらはプロセスであって結果や目標ではない。そのように問う本質追求の土台の上に、本来、真理探究や課題解決がなければならないでしょう。しかしながら、研究者もまた日常業務や業績競争の波に押され、根本から問う姿勢を保てなくなっている傾向があることもまた事実です。

そこで本事業では、分野も組織も世代も、大学のサイロを超えて、研究テーマそのものを深堀する研究ポスター発表大会を、全国の大学の拠点を結んで実施することを試みます。単に、多様な学術分野が集まった発表ではなく、越境しやすくする工夫や、本音で対話できる仕組みを導入することで、そもそも自分の研究とは何なのかを深く問う場の創出をねらいます。そうして、参画研究者の研究テーマの深化につなげる他、分野や組織を超えた共同研究の創出等もねらいます。

＜ やったらどうなるのか？　参加者にとってのメリット等について＞

■　参画した研究者にとって

存在すら知らなかった語彙や視点、テクニックを得ることで研究の幅が広がる。加えて、自分の研究テーマに様々な反応があるという「喜び」を得、また前向きに研究をがんばれると同時に、多角的な意見を浴びることで自身の研究の内省につながる！

■　来場者にとって

研究者のピュアな探究心に触れることで、知的好奇心が満たされるだけでなく、「役立つかどうか」とは異なる学術研究の意味（価値）を体感することができる。また、地域の課題について、研究者がどう考えているのか？を知り、また異なる視点で課題と向き合えるようになる！

■　我が国の学術界にとって

　ややもすると直接的に役立つ研究に傾向しがちで、業績競争に陥りがちな学術界。そういう状況に違和感を持つ研究者が、分野を超えて研鑽し合う場を創出することで、我が国の学問の豊かな土壌づくりに大いに貢献することになる。

■　我が国の産業界にとって

　本事業は、どなたでも参加し研究者とコンタクトを取ることが可能。この事業を活用し、思いもよらなかったアイデアや、知りもしなかった技術と遭遇することは、新規事業開発や課題解決に非常に有益！。今後、あらゆる製品やサービスは AI によってシームレスに接続されることを考えても、多様な分野・業界と関連しておくことは非常に重要。

＜ご参考＞

第一回目「全国 3 QUESTONS　中国地区版」 3 月 3―6 日＠広島大学にて開催！
https://www.iias-3questions.info/tyugoku

＜本件、問い合わせ先＞

国際高等研究所・客員研究員（学際推進事業担当責任者）宮野公樹
iias-3questions.info＠iias.or.jp　、仕事用携帯　080-7008-7664

本件、記事にしていただけないでしょうか？

**　匿名での研究発表会というユニークな学術イベント。匿名性の他にも、分野を超えた対話を促す数々の工夫があります。また、江崎グリコ、メルカリ R4D、サントリーホールディングス他、様々企業から協賛を得て実施しております。分野越境のオリジナルな工夫に加え、企業がこの事業に加入するねらいや、今日の学術界に対する問題意識等、ぜひとも取材頂けませんか？　　上記、お問い合わせ先までお気軽にご連絡ください！**

[国際高等研究所について]

「人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する」という基本理念に基づいた研究所として 1984 年に創設されました。私たちは持続的生存が脅かされる課題に直面し、生き方や価値観の転換までも問われる時代に生きています。人類の未来と幸福のために、時代的、社会的背景に由来する地球規模の課題にどう対処していけばよいでしょうか。国際高等研究所は、こうした課題に対峙し、人間を強く意識し人々の生活と密接にかかわりながら、これからの学術研究や社会に適する方向、視点を考え、問いかけていくことを目指しています。